

こんな風であるから今後労働階級が産業民主主義を徹底せしめんとするならば、先づ工場或は一産業に於ける立憲的精神から、それを労働者自治の産業組織にしてしまふまで漸進的ではあるが先づ工場委員制度から、集合契約、その次には共同管理、それからギルドンシアリズムの産業自治の世界へと進む爲めに、労働者の進むべき道をよく凝視して鋼鐵の如き意志を以つて突進せねばならぬ。

或人は工場立憲運動を一定飛びに革命によつて持ち來すものであるやうに考へて危険がる人もあるが、工場立憲運動は労働階級の自治的精神の勃興と共に進化するものであり、飽迄着實にやらなけ

れば失敗に移るものであつて、先づ組合精神の振興により労働階級が充分産業を支配し得る爲めに訓練せられねばならぬ階梯である。そして一方には消費組合が発達するならば、最後に残つた産業民主の世界へ引き移るにもそう苦勞なしに行くことが出来るのである。

たとひ最後の幕になつても工場本位の自治制度は永遠的なものであるから（ロシアのやうに）我等はよくそのあたりのことを考へて工場立憲運動に努力せねばならぬ。